

早稲田大学フットボールにおけるゲームアナライズの試合への関連性

Relationship between the scouting and the victory of game in American Football of Waseda University

1K05A120

指導教員 主査 太田章先生

杉本 勲央

副査 鹿倉二郎先生

【目的】

アメリカンフットボールは激しいコンタクトスポーツであると同時に準備のスポーツとも言われる。この準備とは基本的には相手チームの分析であり、試合に臨むにあたり、対戦チームを的確に分析し、相手チームの行ってくるプレイ傾向、特徴的なプレイなどの戦術面の分析は非常に重要になる。早稲田大学アメリカンフットボール部では試合に勝つためにこの準備にとっても重点をおいている。本研究ではこの準備が実際の試合で具体的にどれほどの影響を与え、またそれによる結果の違いを分析し更なる競技力向上につなげていく。

【方法】

この研究は早稲田大学アメリカンフットボール部の協力・同意の下に行った。研究対象は、2009年度関東大学アメリカンフットボールリーグで早稲田大学全7試合のうち準備の中でもスカウティングと呼ばれるデータ分析を行った6試合である。対象とされた試合は、事前スカウティングデータと、スカウティングデータからつくられたゲームプランとを事前に分析し、実際の試合をビデオカメラによって撮影し、試合後、撮影された試合を分析しスタッツというデータにまとめたものを比較し考察した。

【結果・考察】

2009年度の関東学生アメリカンフットボールリーグの結果と一試合ごとの分析から、スカウ

ティングからの準備が早稲田大学にとってとても大きな武器になっているということがわかった。試合前に相手を研究しプレイを把握することで数多くのプレイを止めていることがわかった。これは関東学生アメリカンフットボールリーグで喪失ヤード2位という結果からも言える。そしてこの準備を最大限に活かした試合が関東学生アメリカンフットボールリーグ最終戦の日本大学との試合であり、結果試合としても勝利し、関東学生アメリカンフットボールリーグBブロックの優勝、そして東日本アメリカンフットボール選手権への出場を決めた。しかしこの決勝では東日本アメリカンフットボール選手権法政大学に敗れ、早稲田大学アメリカンフットボール部は全国2位で2009年のシーズンを終えた。

では早稲田大学アメリカンフットボール部が日本一になるためには何が足りないのかを考えたとき、私は早稲田大学の強みであるスカウティングからの準備が、同時に弱点となっているのではないかと考える。

理由としては、スカウティング通りのプレイがきたときは前述したように素晴らしいプレイをするが、予想外のプレイや準備以外のことをされたときにやられていることが多いという結果がでたからである。これは2009年度のシーズンでもあらわれており、実際ロングゲインされているプレイのほとんどがこの状況であった。

つまり早稲田大学アメリカンフットボール部が更なる競技力向上と日本一へとなるには強み

となる、スカウティングと準備に更に磨きをかけることに加え、予想外のことに對しての対応力の向上が必要になってくると私は考える。

【まとめ】

- 1) ゲームアナライズによるデータ分析が試合結果、パフォーマンスに直接影響する。
- 2) 早稲田大学の競技力向上にはゲームアナライズで準備したプレイ以外の対応が必要となる。